

遠野風土記

26



市指定有形文化財（工芸品）

所在地 綾織町長岡

所有者 多田誠幸氏

銅造菩薩三尊坐像懸仏

市立博物館に、「銅造菩薩三尊坐像懸仏」が展示されています。

懸仏とは、鏡の中に神仏の像をあらわし、厨子や堂社につり掛けて信仰の対象としたもので、御正体とも呼ばれます。

この懸仏は、室町時代に作られたもので、綾織町長岡の熊野神社に奉納されていました。同じ形の菩薩を三尊鑄出した形で、直径三十センチ、厚さ一・一センチ、鏡は銅板を磨いた銅鏡が用いられています。

古くから鏡には、人の姿を映すとその中に霊が宿るとされ、三種の神器でも知られるように、ご神体として祭られてきました。仏教が盛んになると、「神様と仏様は同じ」という考えが始まり、懸仏は神仏習合を形にしたものとなりました。鎌倉時代以降は、一定の形式が整えられ、室町時代後期から江戸時代にかけて普及しましたが、明治に行われた神仏分離で、多くの懸仏が取り除かれました。

懸仏は、博物館歴史コーナーに展示され、いつでも見学することができます。



一升もちの取材に行ってきた。泣いたり、転んだり。とてもかわいかったです。◆本格的に冬がやってきました。先日、犬の散歩のとき、足をスベらせて転んでしまいました。スベると誰も見ていないのになぜか笑ってごまかします。◆今年も今月で終わり。来年もスベらない編集後記？を目指しますので、どうぞよろしくお願ひします。ハハハ：(笑) (小森)

気が付けば、今年のカレンダーも残り一枚に◆取材や編集で新たな出会いや発見の連続。とても充実した、あつという間の一年でした。取材にご協力いただいた皆さん。本当にありがとうございます。◆皆さんはこの一年、どうでしたか？恒例の広報企画「今年の10大ニュース」を募集中です(19頁参照)。締め切りは17日。どしどし応募してください。(馬場)